

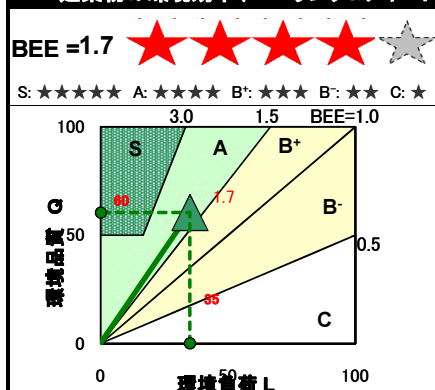
1-1 建物概要

建物名称	(仮称) サンクタス山科御陵	階数	地上7F
建設地	京都府京都市山科区御陵大津畑町	構造	RC造
用途地域	準工業地域/第一種中高層住居専	平均居住人員	280 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年3月 予定	評価の実施日	2010年12月27日
敷地面積	2,636 m ²	作成者	(株)カノンアソシエツ
建築面積	1,526 m ²	確認日	
延床面積	6,500 m ²	確認者	

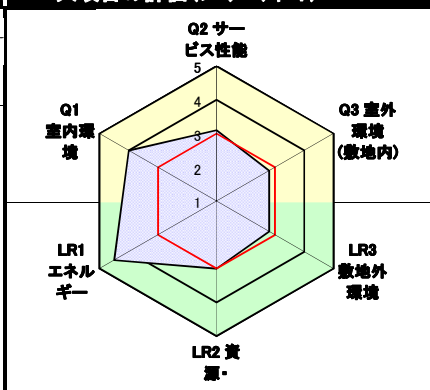
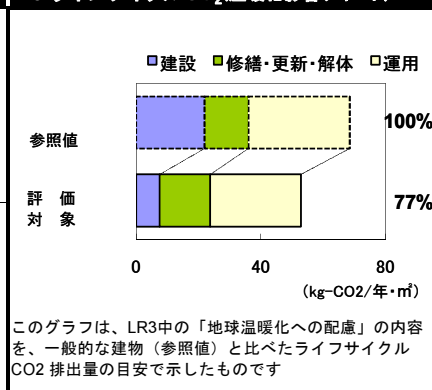
1-2 外観



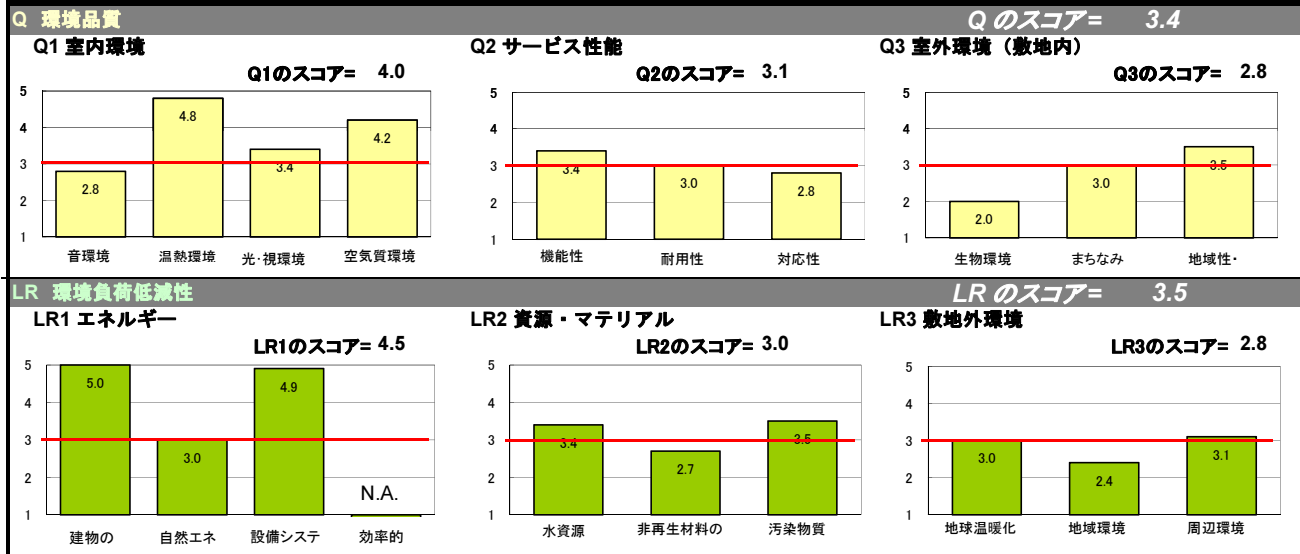
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他
室内環境や、周辺環境に配慮した計画とした。	0
Q1 室内環境 室内の空気を健全に保つため、材料の選定に配慮した。	Q2 サービス性能 維持管理および維持管理機能に配慮した。
Q3 室外環境 (敷地内) 周辺のまちなみや景観に配慮した。	
LR1 エネルギー 建物の熱負荷抑制に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水、部材の再利用、有害物質を含まない材料の使用に配慮した。
LR3 敷地外環境 光害の抑制に対して配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される